

【支援報告】
マナビ県ボリバル市カルセタ

2016年12月の支援内容

- ① カルセタに住む被災された方への物資支援
- ② ゴミ処理場でリサイクルを仕事としている労働者グループへ物資支援
- ③ ボリバル市慈善財団へ\$245.56 を寄付

<購入物資>

医療用弹性ストッキング 1足(足の病気を患っている方へ)、扇風機 1台、作業用手袋 30着、保護眼鏡 30個、マスク 30着、食糧詰め合わせ 11袋
⇒合計: \$ 606.84

【支援①について】

現在の住まい

天井の柱を竹で支えて凌いでいる。



物資支援の様子



【支援②について】

ゴミ処理場の労働者は、個人でリサイクルを行い生計を立てています。収入は月々\$80～150ほど。エクアドルの1ヶ月の最低賃金\$360を大きく下回ります。さらに、地震で住居が一部崩れ、家具や生活用品にも損害を受けました。現在の住まいも未修復のまま生活を続けています。

私たちは彼らの現状を知り、少しでも作業が安全に行え、収入に役立てるようにと、仕事に使える作業用手袋とマスク、保護眼鏡と食糧の詰め合わせ袋を届けました。

<支援を受けた方からのコメント>

『安定した収入源はなく、住居の再建の見通しもない中、みなさんからの支援に本当に感謝します。』

『私の兄弟は、障害のために自分で体調管理ができません。この扇風機で暑さをしのぐことができます。』

リサイクルグループのリーダーより

『これまで誰にも気づいてもらはず、こんなに大きな贈り物、クリスマスプレゼントをもらったのは初めてです。あなた方に感謝します。』

みなさん各々支援を受け取ってもらい、大変喜んでいただきました。

仕事場風景：ごみの最終処理場

ボリバル市と近隣のフニン市、トサグア市のすべてのごみがここに集まる。



物資支援の様子



【支援③について】

慈善財団への寄付は、クリスマス復興イベントに使われた食費の一部と、被災された方へ贈る、食糧・生活用品の詰め合わせ袋の購入に利用されました。

イベントでは、子供から高齢者まで約160名が参加しました。慈善財団の職員と言語聴覚士の研修生による踊りの披露からはじまり、みんなでダンスを楽しみ、音楽のコンサートなどが催されました。みんなで楽しい時間を過ごすことができ、また、日本からの支援に大変喜んでいただきました。

クリスマス復興イベント風景



みなさまの温かいご支援、ご協力本当にありがとうございました。

内藤智子（青年海外協力隊・理学療法士）